

# 「けんちくけんせつ女学校」が実践する女性活躍の推進

一般社団法人けんちくけんせつ女学校 代表理事／校長

有限会社ゼムケンサービス 代表取締役

こりた じゅんこ  
籠田 淳子

## 1. はじめに ～けんちくけんせつ女学校の設立経緯～

けんちくけんせつ女学校は、建設現場に立てる女性と建設現場でその女性を活かすことができる会社のための、日本で初めてのインターネットと研修所を併用した学校です。

建設業における女性活用の期待は高まるもの

の、そこに挑戦したいと思う女性と、受け入れ側の企業の意識の障壁は依然として高いのが現状です。建設業界で働き、一旦離職した女性にも再度活躍できる場を与えるきっかけづくりと同時に、女性力をビジネスに活かしたい企業のサポートを目的とし、働く人と受け入れる企業のはし渡しと稼げる力の育成を目的とした学校を2019年4月に設立しました（図-1）。

私が当校を立ち上げたのは、現場の意識を変え

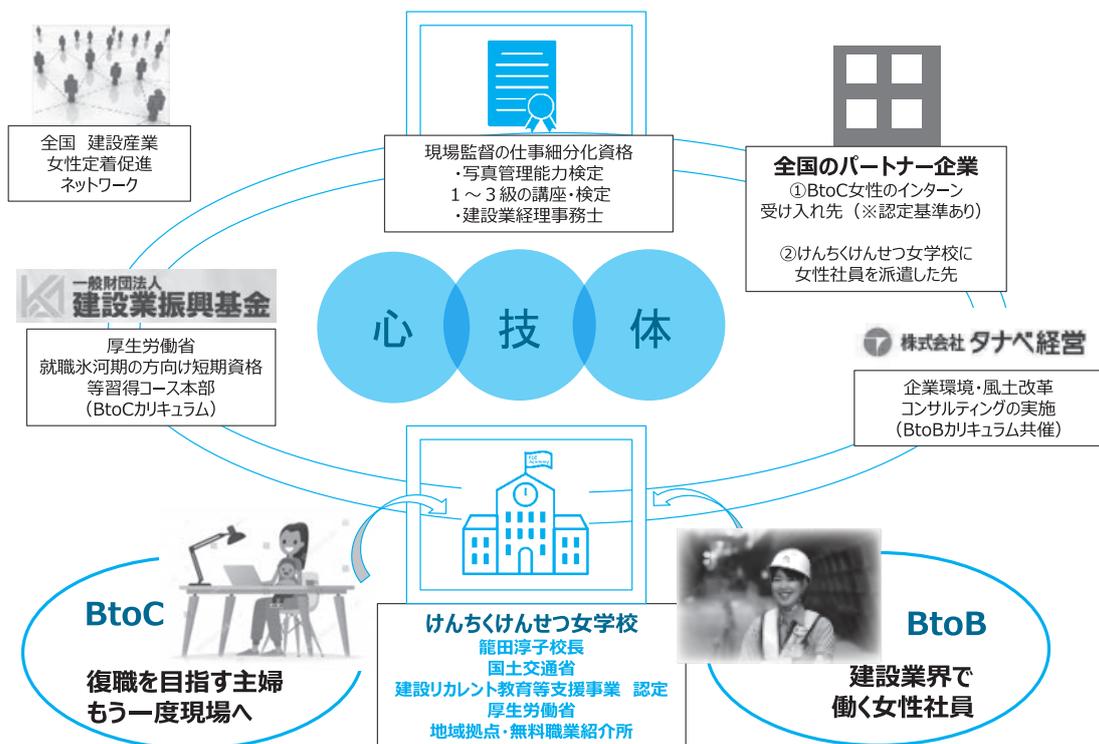


図-1 けんちくけんせつ女学校全体スキーム

なければ、真の意味で建築や建設の世界で女性の活躍はありえないと肌で感じてきたからです。

北九州の工務店の家に生まれた私は、子どもの頃から建設現場の大人たちに囲まれて育ちました。その後、一級建築士の資格を取得、実家の工務店での自分自身の女性多能工としての経験を経て、2000年に有限会社ゼムケンサービス（特定建設業・一級建築士事務所）を後継し、建設業を諦めていた女性を社員として雇用、女性技術者技能者として育成していく中で建設業界での女性力の活かし方を深めてきました。

華々しいことだけでなく試行錯誤・失敗もたくさんありましたが、小さな地方の工務店ながら20年間諦めず経営をしてきました。現在では、社員8名中7名が女性、しかも現場に出る技術者で、一人当たりの売上高は業界平均を大きく上回るまでになりました。

この女性が建設業を一生の仕事にできるような、人材育成・組織づくりの経験ノウハウは、国家表彰や、全国での講演でいただく声から、広く共有し、全国で頑張る女性技術者や、これから建設業で頑張りたい女性、ダイバーシティ経営を目指す建設会社の皆さまに役立てていただきたいという想いです。

## 2. 女性力はビジネスになる

ワークライフバランスを推進することは、個人

の自己実現に向かうとともに、企業の業績向上やイノベーションにつながります。建設業で働く女性にアンケートをとると、「自分一人のために、別に更衣室やトイレを準備してもらうのは申し訳ない」、「特別扱いは恐縮してしまう」という思いを持っている人がほとんどです。

「女性力はビジネスになる」というフレーズは、自分の性を前向きにとらえ、それを積極的に活かしていくための鍵となっており、当校では最初に必ずお伝えしていることです。

それは女性に限らず、マイノリティがその特性を弱みでなく強みととらえ、自己肯定感を持つことで、ダイバーシティ経営が実現できると考えています。

建設産業において、圧倒的マイノリティである女性力を活かすべき理由は多くあります。建設市場の動向や担い手不足などの外部環境は知られているとおりです。近年、技術者・技能者を目指す女性は増えており、例えば建設系大学の女子学生はいまや3割程度ですが、現場に出ている女性の割合はわずか3～5%とも言われています。業界の担い手が不足しているにもかかわらず、業界を志望している女性が働くことができない状況なのです。

また、女性と男性は脳の構造が違うと言われていています。そのため、物事の認識、コミュニケーションの特性等に違いがあります。さらに、女性はライフステージごとにさまざまな役割・視点を持っています。その共感力の高さで、自分が経験し

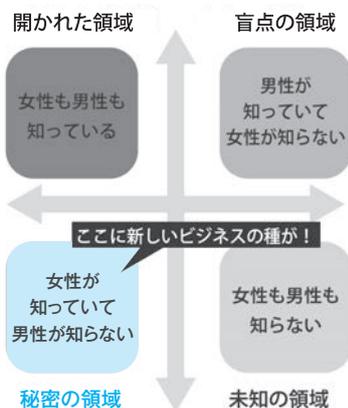


図-2 女性力をビジネスにする領域と研修中の様子

ていることの他にも、他人から聞いた経験、経験していないという経験も自分事としてとらえ、仕事に活かすことが可能です（図-2）。

私は、このような女性力を女性自身と企業が信じ、仕事に活かしていくと決断することが、多くの人の住まいや商店やビル、すなわち街を形づくる建築を豊かにしていくことだと信じています。

### 3. 心・技・体を鍛えるカリキュラム

けんちくけんせつ女学校のカリキュラムは、大きく分けてBtoB（建設企業に勤める女性向け）、BtoC（建設業へのリトライを目指す女性や、新しく挑戦してみたい女性向け）の2つがあります。それぞれに合ったカリキュラムを用意しています（表-1）が、共通するのは、心・技・体を

表-1 カリキュラム

対象者	講義名・期間	カリキュラム内容	人数
BtoB 建設企業に勤める女性 技術者・技能者・事務 職等	ベーシックコース 実施期間3カ月 (1日×3回)	1日目「自身の特性を正しく認識する」 ・建設産業を一生の仕事にするために必要なこと ・コミュニケーション力向上により職場活性化へ～1on1を通じて～ ・健康管理の必要性 2日目「ワークライフバランスと生産性を考える」 ・女性力をビジネスに活かす ・ワークライフバランスの価値 ・ストレスホルモンマネジメント ・生産性向上としてのタイムマネジメント 3日目「キャリアビジョンを描く」 ・チーム力を高める ・女性が生きるリーダーシップ ・健康バランスを整える～実践編～ 1on1 ミーティング、講師による面談あり	累計 44人
BtoC 就職氷河期世代 35～54歳 非正規雇用者	第1回建設現場サポ ーター（写真管理能 力検定）コース 実施期間1.5カ月 (講習20日)	入校式・オリエンテーション・ジョブカード作成 ビジネスマナー・ITリテラシー 建設現場で働く基礎知識 自己理解 品質管理 安全管理・安全衛生教育 キャリアデザイン・自身の特性（長所・短所）を知る 工程管理 図面の読み方 健康バランスを整える 工程表作成実習 写真管理能力検定 3級撮影管理士（資格取得） ワークライフバランスの価値 プレプレゼン会・先輩女性技術者とのオンライン座談会 原価管理 環境管理 積算 建設業経理事務士4級（資格取得） インターンシップ・現場見学 チーム力を高める キャリアステップ・ビジョンアプローチプレゼンテーション 会社説明会・面談会	20人 予定

鍛えるカリキュラムであることです。

- ① 心：圧倒的男性多数の現場で、孤独になりがちな女性のための心得を教授します。同時に、企業にはワークシェアリングや労務管理のシステムを指導します。女性と男性のチームワークを発揮させ、最後までやり遂げられる女性と企業をつくります。
- ② 技：現場には、男性と同じように女性にもできる仕事があります。工具や機械も使えるようになれば、やればやるほど身につく技術習得を応援します。写真管理能力検定も行い、現場で役立つ人財を育てます。
- ③ 体：女性は「危なっかしい」、「弱い」というレッテルをはがします。女性の特性に合った体力づくりと食生活を指導します。自信のある体で、きめ細やかな仕事を実践します。

#### 4. 建設産業が女性技能・技術者を採用・定着するためのポイント

女性技能・技術者を採用・定着するためには企業や業界全体が大きく変わらなければなりません。女性や若者が働き続けられない大きな要因は、次の3つです。

- ① 言葉の壁：現場の職人は、符丁、隠語、製品名の通称を常識的に話しており、それは地域差・会社差・業種差・職種差・個人差があります。
- ② 時間の壁：早朝の朝礼に加え、移動距離は現場によってさまざま、朝礼に出席したり現場に入場することができないことや、工事・業務の専任性などが、子育てや介護を行っている人には非常に困難です。家庭の事情は常に同じではなく、今日はOKでも明日は難しいなど、時と場合により大きく変化します。現場のルーティンには柔軟性がなく、ライフイベントにより働き続けることができなくなります。
- ③ 知識の壁：一品受注生産で専門29業種の建設業では、幅広い知識と経験が必要で、特に入

社から年数の浅い女性や若者にとって、技術を習得するのは困難です。上司も働き方改革が必要で、特に中小企業ではサポートや育成の時間が取れず、部下が辞めていくのを引き留めることができません。

これらの問題に対し、段階的にでもワークシェアリングを導入すべきです。そのためには、見て覚えろの建設業から、知識ノウハウが見える化し、細分化する必要があります。

また、朝礼の代わりに昼礼を導入したり、ITツールを利用し上司とのコミュニケーションをとりやすくするなど、時間的な制約を柔軟に解決できる方法をいくつも準備し、時間的効率化を図るとともに、時と場合によって、最適な方法を選択できるようにします。

女性は特にプライベートの状況が仕事に大きく影響するため、上司は女性と密にコミュニケーションをとれる仕組みを準備し、女性のプライベートの状況も知っておくことが必要です。昼休みの時間は、みんなで一緒にプライベートのことも話しながら食事をとるなども一例です。

さらに、建設企業もDX（デジタル・トランスフォーメーション）化を目指す必要がありますが女性はITツールを活用することも上手なので、これからの担い手不足の時代の生産性向上にも役立ちます。

#### 5. おわりに ～男女共創の建設産業へむけて～

これからの建設業は、マイノリティの経験知識を活かすことのできる業界に変貌していかなければなりません。これは、これまでの常識を疑い、新しく築いていくことです。男女共創の建設業が、地域に無くてはならない存在となると信じています。一緒に、新しい建設産業をつくっていきましょう！